

JR東海労なごや

2011年6月22日 No 854
JR 東海 労 名 古 屋 地 方 本 部
発行者： 山 田 哲 也
編集者： 堀 部 肇

JR東海労結成20年

組合員・家族のための労働運動を目指し

カサイ労政と闘った20年

第26回定期大会開催



東海の地に労働運動の灯は決して消えない

6月19日、JR東海労は「ワークライクプラザれある」において、第26回定期大会を開催しました。議長団には新幹線地本伊藤代議員、新幹線関西地本三田代議員を選出し、淵上委員長より「松崎明さんの意志を引き継ぎ、さらに闘って行く」と力強い挨拶がありました。

「東海労など1年で潰す」と豪語していた、葛西会長と真っ正面から闘い続け20年が経過しました。人間性のかげりもない「命令と服従」「規律と忠誠心」の葛西労政に、職場で社員は悲鳴を上げています。社員間の競争や管理を強化し、脱落してゆくものは容赦なく切り捨てられてゆき、精神的に追いやられ、病気になったり果ては自ら命を絶つなど不幸な事態さえ招いています。組合員の利益を守るということは人間性を取り戻すことです。人を人とも思わない労務管理と闘うため労働組合が必要であることがあらためて確認されました。

職場からの闘いが組織を強くする

職場での取り組みが代議員により発言され、名古屋地本からは4名の代議員が、ATS-PTをめぐる取り組み、リニア反対集会、不当処分などについて発言をしました。



発言する名古屋地本代議員

20年の節目を新たな出発点としてこれからも闘い続けようと、小林書記長の総括答弁のあと淵上委員長の団結がんばろうで閉会しました。